

(地Ⅲ46F)

平成28年5月23日

都道府県医師会

感染症危機管理担当理事 殿

日本医師会感染症危機管理対策室長

小 森 貴

ジカウイルス感染症患者（輸入症例）の発生について

今般、日本国内で、ブラジル以外の中南米の流行地域への滞在歴がある女性1名が発疹等の症状を示し、神奈川県内の地方衛生研究所における検査の結果、ジカウイルス感染症の陽性が確定したことから、厚生労働省より添付のとおりプレスリリースされましたので情報提供いたします。

我が国でジカウイルス感染症患者が発生したのは9例目（全て輸入症例）であり、今年2月以降としては6例目になります。

なお、現在、患者は自宅療養中で、既に解熱して、状態は安定しているとしております。

つきましては、貴会におかれましても本件についてご了知のうえ、郡市区医師会、関係医療機関等に対する情報提供について、ご高配のほどよろしくお願い申し上げます。

平成 28 年 5 月 23 日

【照会先】

厚生労働省健康局結核感染症課

感染症情報管理室長 宮川 昭二(内線 2389)

課長補佐

中谷祐貴子(内線 2373)

(代表番号) 03(5253)1111

報道関係者 各位

ジカウイルス感染症患者（輸入症例）の発生について

日本国内で、ブラジル以外の中南米の流行地域への滞在歴がある女性 1 名が発疹等の症状を示し、5 月 20 日に医療機関を受診しました。同日夜、県内の地方衛生研究所における検査の結果、ジカウイルス感染症の陽性が確定し、5 月 21 日に医療機関から自治体に届け出があり、本日午前、厚生労働省に連絡がありました。

我が国でジカウイルス感染症患者が発生したのは 9 例目(全て輸入症例)であり、今年 2 月以降としては 6 例目になります。

この患者に関する情報等は、以下のとおりです。

○ 患者に関する情報

(1) 概要

- ① 年代：20 代
- ② 性別：女性
- ③ 滞在国：ブラジル以外の中南米の流行地域（6 か月程度滞在。5 月中旬に帰国。）
- ④ 症状：発熱（37.3℃）、発疹
- ⑤ 現地での蚊の刺咬歴：あり
- ⑥ 居住都道府県：神奈川県

(2) 患者の状況

現在、患者は自宅療養中。既に解熱して、状態は安定しています。

国民の皆様へのメッセージ

ジカウイルス感染症は、一般に蚊に刺されることによって感染する疾患です。

ジカウイルス感染症は一般的に軽症であり、重症化するリスクは極めて低いですが、流行地域へ渡航する場合は、長袖・長ズボンを着用したり、蚊の忌避剤（虫よけスプレー等）を使用したりして、蚊に刺されないように注意してください。特に、妊婦の方は、流行地域への渡航は控えてください。

性行為感染のリスクを考慮し、流行地域に滞在中は症状の有無にかかわらず、性行為の際にコンドームを使用するか性行為を控えることを推奨します。

また、流行地域からの帰国者は症状の有無にかかわらず、忌避剤の使用など蚊に刺されないための対策を、少なくとも 2 週間程度特に注意を払って行うことが推奨します。流行地域から帰国した男性は、症状の有無にかかわらず、最低 4 週間、パートナーが妊婦の場合は妊娠期間中、性行為の際にコンドームを使用するか性行為を控えることを推奨します。流行地域から帰国した女性は、帰国後最低 4 週間は妊娠を控えることを推奨します。